

**会員登録
新規／更新**

**オンライン登録
新規／更新**

会員登録のお願い

2018年が過ぎ、また2019年度会員登録のお願いの季節になりました。昨年も会員登録数が増え、300名を超えました。この会員数の安定した増加基調は、トロント仏教会の明るい未来を感じさせてくれます。しかしながらいまだに会員登録をされていない方がおられます。

言うまでもなく、トロント仏教会の未来は会員の皆様のサポートに依存しており、ここに今年度の会員登録と会費のお支払いをお願いするものです。

1. トロント仏教会は常に会員特典の向上をめざしておりますが、ここにいくつかの特典を列記します。
2. トロント仏教会の運営に関する投票権の取得、例えば総代表および各会リーダーの選出、予算の決裁その他トロント仏教会の将来に関する重要な事項等。
3. “the Jodo Shinshu values of the Temple” の定期購読
4. 現行会員による無料公証業務
5. CAA Premium-level の割引
6. トロント仏教会特別行事への参加費用の免除あるいは一部減免

一般会員とは各年1月1日から12月31日まで有効ですが、トロント仏教会の会員として活動するにあたり、年初において速やかな会員登録をお願いします。会員登録と会費（\$130）の受理後、会員カードを送付します。

名誉会員とは77歳以上の方で、2019年度会員登録をされた方、あるいはすでに名誉会員であり毎年名誉会員の継続を表明された方に会員カードを送付します。名誉会員は年会費が免除されますが、ご志納はありがたく拝受させていただきます。

「自分探し」に惑わされない

「自分探し」という言葉は、いつごろから使われだしたのでしょうか。少なくとも、私の若いころには使わなかったように思います。

この言葉には、「今の自分はほんとうの自分ではない」という焦りに似た思いと、「どこかにもっと素晴らしいほんとうの自分があるはずだ」という願望とがこめられているのではないかと感じます。しかし、探して見つかるような「自分」が、今の自分のほかにあるのでしょうか。「自分」とは、何かに取り組んで成長し、人生を充実させていく課程そのものではないかと思えます。焦って「今」を否定したり、「今」以外のどこかに「自分」を探して迷うより、「今」にしっかりと向き合うことが大切なのです。

「自分探し」という言葉が出てきた理由は、社会や親から「自分らしさを持つ」「自分の個性を出せ」と言われつけ、そうしたプレッシャーに何とか応えなければならぬとする若い人の反応なのかもしれません。しかし、「自分の個性を出せ」と言う同じ口で、親も社会も「目立つことはするとみなから嫌われるからよしなさい」と没個性を要求するのですから矛盾しています。

ある小学校で、「みんな違って、みんないい。」という金子みすゞさんの詩の言葉を各クラスに張ることになりました。それぞれの個性を尊重しようというわけです。ところが、どのクラスでも、教室の同じ場所、同じ位置に、その詩は張ってあったそうです。みんな違っていいのなら、それぞれ好きなところに張ればよさそうなのなのに、どの教室も寸分違わない場所に張ってあったというのです。

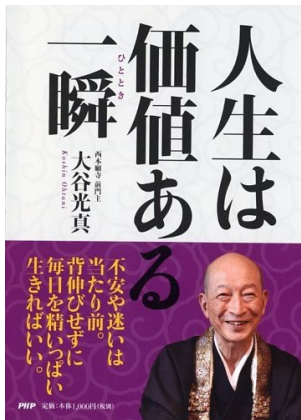
私はこの記事を読んで思わず笑ってしまいました。その学校では、「みんな違って、みんないい。」と、いかにも生徒たち一人ひとりの個性を認めるかのようなふりをして、実際にやっているのは、「詩はここに張りなさい」と型にはめることだったからです。

「自分」などというものは常に流動的で、今の自分はこうだと言えても、次の日にはまた違った面が出てきてもおかしくありません。「自分はこうだ」とあまり固定的にとらえず、また、「自分探し」などという言葉に影響されずに生きたほうがよいように思います。

浄土真宗本願寺派 西本願寺

前門主 大谷光真

（『人生は価値ある一瞬』PIP研究所）より



報 恩 講

宗祖親鸞聖人のご命日にあたり、聖人のご苦勞を偲び
ご恩徳に報謝する、浄土真宗でもっとも大切な法要です

1月19日（土）

午後5時 ベジタリアンポットラック夕食

午後6時半 報恩講（逮夜法要）

1月20日（日）

午前11時 報恩講（日中法要）

午後1時 トロント仏教会 年次総会





新年明けましておめでとーございます。

私にとって昨年を振り返ると故郷の大分弁という「しらしんけん」という言葉がいかにも当てはまる気がします。「しらしんけん」とは、「ひたすらに」や「我武者らになって」といった意味です。と言いますのも、ここカナダ東部地区の駐在開教使であったヤンコ先生が退任され、2018年から担当が私一人になるという変化があつたからです。そのため2018年の1月は、不安とも弱気とも似つかないあらゆる物事への言い訳が頭の中をぐるぐると巡っていました。

それでも仏事だけはしっかりと勤めさせてもらおうと意気込み、毎週のサンデーサービス(日曜法座)にはいつも以上に力が入っていました。しかし、どうも法話をするときになると御門徒さんとの距離感が着任当初より上手く掴めずにいました。なぜだ?という焦りから法話に関するアンケートをしたり、「人前で話すコツ」といったようなビジネス本に手を出したりしました。けれども不安が不安を呼ぶように、そのような取り組みは納得のいかぬまま日々が過ぎ去ってゆくものです。

そんなある日、先輩僧侶のブログを見ていたら、あの言葉が目にとまりました。それは「人を助けうと思ふけ、助けられる吾が身を忘れつだいな」という妙好人源左の言葉でした。この言葉から改めてこの一年間を見直してみると、法話をする際の私はご門徒さんらに仏教を説くばかりで自分自身が阿弥陀如来のおはたらきにより救われる身であることを忘れて法話をして

いることに気付かされました。つまりは、阿弥陀如来のおはたらきのお取り次ぎをさせてもらっていた自分自身がいつの間にかその一座を奪い主人公となっていたのです。

そして、御門徒方の気遣いや手助けをよそに一人で突っ走っていた気がします。なんとも恥ずかしいことです。確かにそんな傲慢とも捉えられる姿勢では、なかなか距離は縮まりません。また大事なものは、常に仏法を聞かなければならないのは他の誰でもなくこの自分であつたということです。

その先輩僧侶の文には続きがあり、「同行の一言は三年の仏学にまさる」と書かれています。たしかに僧侶にとって仏教学や真宗学の勉強は必要不可欠なことです。またその研鑽を重ねずして伝道などできません。しかしそこだけに囚われるのでなく、真宗仏教を歩む御門徒さんと共にこの手が合わる大切さも改めて思い知らされました。

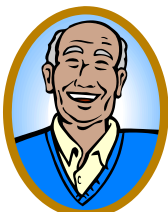
2018年は事故にあうことも病を患うこともなく終えることができた。ただ、2019年はどのような縁に出会ふのか誰にも分かりません。それ故に新年を迎えた特別な今日だけでなく、いまある一日一日の賜り物に合掌させていただければと思います。

南無阿弥陀仏

大内祐真

敬老会

3月17日(日) 午後12時半より



喜寿、米寿、白寿を迎えられる方々に、長年にわたってお寺のために貢献していただいた感謝の気持ちを込めて、表彰状を送らせていただきます。

該当されます方は、3月3日までにお寺までご連絡下さい。なお数え満年齢のどちらでも結構です。

佛心

二〇一九年一月号

浄土真宗

トロント本願寺

年頭の辞

新しい年のはじめにあたり、ご挨拶申し上げます。

昨年は日本においては、豪雨・台風・地震など多くの災害が起こり、また、世界でもインドネシアにおける地震と津波、北米における大型ハリケーンなど多くの自然災害が起こりました。災害によってお亡くなりになられた方に謹んで哀悼の意を表しますとともに、被災された方に心よりお見舞い申し上げます。また、これら以外にも紛争やテロ・飢餓などによって、日々多くの方が犠牲となり、困難な生活を送っておられることも忘れてはいけません。

さて、私は2016年10月1日の親教「念仏者の生き方」において、「仏法を依りどころとして生きていくことで、（中略）仏さまのお心にかなう生き方を目指し、精一杯努力させていただく人間になるのです」と記しました。本願寺においては、昨年4月より「へ貧困の克服に向けて〜Dāna for World Peace〜」子どもたちを育むために〜という取

り組みが始まっています。言うまでもなく、私たちは自己中心的な考え方を離れることができず、自力修行によって悟りを開くことができない凡夫です。しかし、阿弥陀さまのおはたらきによって自己中心的な凡夫であると気づかされるからこそ、そのような私を救って下さるお慈悲のお心に少しでもかなうよう、すべての人々の幸せを願い、現実の困難な課題に積極的に取り組みることが大切ではないでしょうか。

本年も浄土真宗のみ教えを聞き、南無阿弥陀仏とお念仏申す日々とともに過ごさせていただく中で、現実の課題に向き合う一年にしたいと思います。

2019年1月1日

浄土真宗本願寺派

門主 大谷光淳

